

製品名: S26A5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17513**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	81kDa

抗原情報

遺伝子名	SLC26A5 PRES
別名	Prestin (Solute carrier family 26 member 5)
遺伝子 ID	375611.0
SwissProt ID	P58743
免疫原	ヒト S26A5 由来の合成ペプチド

背景

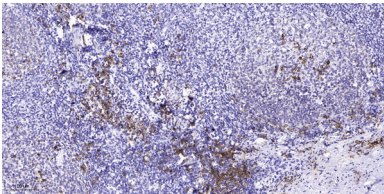
この遺伝子は、SLC26A/SuIP トランスポーターファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は、蝸牛の運動性外有毛細胞（OHC）において分子モーターとして機能し、細胞長の変化を誘導することで音圧レベルを増幅します。この膜貫通タンパク質

は不完全な陰イオントランスポーターであり、陰イオンが細胞膜を通過できず、代わりに細胞内 Cl⁻濃度の変化に応じて構造変化を起こし、その結果細胞長が変化します。このタンパク質はマイクロ秒単位で機能し、これは従来の分子モータータンパク質よりも数桁高速です。この遺伝子の変異は、感覚神経性難聴を引き起こす可能性のある候補です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年11月]、疾患：SLC26A5 遺伝子の欠陥は、いくつかの劣性非症候性難聴の原因となる。機能：哺乳類の聴覚器官において、聴覚刺激を外有毛細胞の長さ変化に変換し、音の増幅を媒介する運動タンパク質。プレスチンは双方向の電圧-力変換器であり、マイクロ秒単位で動作することができる。プレスチンは、細胞質内の陰イオン（おそらく塩化物イオンと重碳酸イオン）を外因性電圧センサーとして利用する。ミリモルレベルの親和性を持つ部位に結合した後、これらの陰イオンは膜貫通電圧の変化に応じて膜を透過する。過分極後には細胞外表面へ、脱分極後には細胞質側へ移動する。結果として、この転座はタンパク質の構造変化を引き起こし、最終的には細胞膜面におけるタンパク質の表面積を変化させる。陰イオンが膜の細胞質側（短状態）にあるとき、この面積は減少し、イオンが膜を越えて外表面（長状態）にあるとき、この面積は増加する。したがって、このタンパク質は不完全トランスポーターとして機能する。陰イオンを膜を越えて輸送するが、これらの陰イオンが解離して細胞外空間へ逃散することを阻止する。外有毛細胞の運動性阻害剤であるサリチル酸は、プレスチン陰イオン結合部位において競合的拮抗薬として作用する。、オンライン情報：Pump up the volume - 2002年5月号 第22号、類似性：SLC26A/SuIP トランスポーター (TC 2.A.53) ファミリーに属する。、類似性：1つの STAS ドメインを含む。、細胞内局在：外有毛細胞の側壁。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。